

(声明)

## 自民・公明の党利党略による府会議員の定数条例強行に厳しく抗議する

20140930 日本共産党京都府会議員団

本日の府議会本会議において、自民党は、左京区の府会議員定数を現在の4議席から1議席削減し、宇治市及び久世郡を1議席増とする何の道理もない府会議員定数条例案を提案し、公明党とともに多数で強行するという暴挙をおこなった。わが党議員団は満身の怒りを込めて抗議するものである。

今回の定数問題の論議にあたり、自民党は、議会改革検討小委員会で当初から京都市内を10議席削減するという人口比例原則を踏みにじる暴論を繰り返し主張してきた。しかし、その提案はわが党を始めとする厳しい批判の中で「法や道理に見ても全く成り立たない事」が明らかになった。こうした中で、自民党は単独過半数を確保するため、公明党とともに何の根拠もない左京区の定数削減を持ち出し、議会制民主主義を踏みにじり、一票の格差を拡大するという絶対に許されない党利党略の暴挙を行ったものである。

左京区の定数4議席は、議員一人当たり人口が最も少ない南区と比べ一票の格差が1.28倍であり、削減する理由はどこにもない。1議席削減されれば、一票の格差は1.71倍に拡大するのであり、人口比例原則に基づく定数是正に完全に逆行する。しかも左京区は、前回の定数是正論議の際にも自民、公明の党利党略で1議席削減されたばかりであり、左京区の有権者を愚弄する暴挙以外の何物でもない。

また、宇治市及び久世郡についても、1票の格差は1.56倍にとどまっており、逆転区とされた右京区は、最新の推計人口で宇治市及び久世郡を上回っており、定数是正の根拠がないものである。

今回の自民党、公明党の暴挙は、議会運営にも汚点を残すものである。府議会の選挙区・定数のあり方については、今年3月以来、議会改革検討小委員会において府民に公開された形で議論されてきたが、今回の自民党案は議会運営委員会の場で初めて提案され、議論もなされず強行したものである。府民の一票の権利と重みを考えるならば、府民に公開された場所で徹底して議論し、府民の意見を反映しながら決定すべきであり、密室協議は絶対に許されない。わが党のこうした主張にも耳を貸さず強行したことも許されない。

わが党議員団は、人口比例原則を無視した自民党、公明党の定数削減に強く抗議し、府民の一票の権利と基本的人権を守るため、引き続きたたかうものである。